

困難な問題を抱える女性をめぐる最近の動きについて

佐賀県男女参画・こども局男女参画・女性の活躍推進課長 横田 英治

令和4年5月19日に成立した「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(令和4年法律第52号)」が本年4月1日から施行されます。

婦人保護事業は、昭和31年に制定された売春防止法に基づく要保護女子の保護更生を図る事業として始まりましたが、これまで抜本的な見直しがなされていませんでした。しかし、昨今の女性を巡る課題は、生活困窮、性暴力・性犯罪被害、家庭関係破綻など複雑化、多様化、複合化しています。コロナ禍によりこうした課題が顕在化し、孤独・孤立対策といった視点も含め、新たな女性支援の強化が喫緊の課題となりました。

このため、婦人保護事業を売春防止法から切り離し、女性への支援を実践する民間団体との協働といった視点も取り入れた新たな支援の枠組みが構築されたものです。

同法では、目的・基本理念に「女性の福祉の増進」、「人権の尊重や擁護」、「男女平等」といった視点が明確に規定されており、国や地方公共団体には基本理念にのっとり困難な問題を抱える女性への支援のために必要な施策を講ずる責務があると明記されています。また、国の基本方針に基づき、困難な問題を抱える女性の支援のための施策の実施内容について、都道府県が基本計画等を定めなければならないとされています。

県では、「佐賀県困難な問題を抱える女性への支援基本計画(案)」をとりまとめ、本年3月中の策定・公表に向けた作業を進めています。計画(案)では、「佐賀で生きる全ての女性の人権が尊重され、女性が安心して、かつ自立して暮らせる社会の実現」を目指す姿として掲げ、4月に設置する佐賀県女性相談支援センター(3月まで佐賀県婦人相談所)が中心となって、

困難な問題を抱える女性からの相談に応じ、佐賀県DV総合対策センター(アバンセ内)や関係機関・団体等を含めた支援体制の中で、必要な支援につないでいくこととしています。



また、県では、令和3年度から女性に寄り添う「支援の輪」づくり事業を実施しています。令和5年度は、5月から県内6箇所で様々な困難を抱える女性を対象として「女性のためのほっとカフェ」を開催しました。ほっとカフェは、県内のNPO法人等の皆様が運営、アバンセスタッフの支援という形で実施しており、女性の居場所という面だけでなく、社会福祉士の方々による個別面談を通じ、相談者を適切な支援窓口につなぐといった機能を持っています。引き続き、NPO法人等の皆様やアバンセと連携しながら取り組んでいきます。

県では、佐賀県DV防止・被害者等支援基本計画(第5次計画)を策定し、先ごろ公表しました。この計画では、目指す姿を「DV等のない、安全で安心して暮らすことのできる社会」とし、第4次計画の施策に引き続き取り組みながら、新たな取組として若年層に対する予防教育の更なる推進を図ります。また、災害時にも切れ目ない相談支援を行い、窓口等の周知に取り組みます。

困難な問題を抱える女性への支援やDV防止・被害者等支援においては、関係機関等が連携を密にし、その取組を一層強化していくことが何より重要と考えております。今後とも、皆様のお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

佐賀県内の女性議員の状況

2023年春の統一地方選挙では佐賀県議会の女性議員が2名から3名に増え、その他の市町の議会でも殆どの議会で女性議員が倍増し躍進をとげました。しかし2023年5月現在、20市町の女性議員の割合は14.5%と、目標にしてきた30%の半数にも届いてい

ません。女性議員ゼロ議会もまだ3町あります。1996年に政策決定の場にもっと女性の声をと「女性参画研究会・さが」を立ち上げて28年目となりますが、まだまだ私たちがやらねばならないことはあると昨年「さが・女性政治塾」を立ち上げました。

さが・女性政治塾を実施しました

【開講式】

日時 2023年8月19日(土)13:30～14:30

場所 佐賀市メートプラザ 大会議室

主催者である「女性参画研究会・さが」の山崎和子理事長とサポート団体の佐賀県女性議員ネットワークの盛泰子代表が挨拶。盛代表からは「是非一緒に社会を変えていきましょう」との激励の言葉を頂きました。

このあと受講者が受講の動機や自己紹介を行いました。今回の受講者は佐賀市、小城市、唐津市、伊万里市、上峰町、白石町、吉野ヶ里町、久留米市、太宰府市からの17名です。

【第1講】

日時 2023年8月19日(土)14:40～16:00

場所 佐賀市メートプラザ 大会議室

講義(対談形式)テーマ「なぜ女性議員が必要か」

講師 前田隆夫さん(西日本新聞論説委員)

盛泰子さん(佐賀県女性議員ネットワーク代表)

盛さん：伊万里市議会議員として9期目を迎えた。かつて佐賀新聞社の論説委員だった富吉健太郎さんから「女性議員の皆さんは議会のノイズになって欲しい」と言われた。予定調和で粛々と結論を出していくその中に巻き込まれるのではなく「なんで？」と疑問を持たら聞く。その役割を果たして下さい。私も言われた通りと思い、実行しています。



開講式 山崎和子理事長挨拶



第1講対談講師 前田隆夫さん



開講式 協力団体盛泰子代表挨拶

講義概要

前田さん：女性がたくさん議会に参加することで政治の風景が変わる。高齢男性の黒いあるいは鼠色の背広の集団からまずは見た目が変わる。見た目が変わるのは大事なことで、一般の人たちの議会に対する印象が変わる。上智大学の三浦まりさんが言うようにこれまでの男性による男性のための政治を変えていくことに繋がる。しかし、20人の議会の中に1人だけ女性が飛び込んでいった時、その人も一緒になって男性政治の仲間になってはダメ。女性議員は増やさねばならないが、数だけ増やしても結果、男性政治が継続されるのは良くない。



受講生の皆さんと講師、スタッフ

【第2講】

テーマ「地元議会を知らう!～地元の議会の課題に気付く～」

地元の議会傍聴を課題としました。全員が9月議会を傍聴しレポートを提出してもらいました。初めて議会を傍聴した塾生が殆どでしたが、議会ウォッチングを続けることの重要性を感じたと感想を述べていました。

9月議会を傍聴した塾生の感想(一部)

- ・ 災害時避難場所の質問・答弁を聞いて、〇〇校区は公営住宅の空室が大変多く、今後も進むと思われる。その空室も被災した方の一時的な居住として活用する話は噂レベルで聞いた。住民はそもそも知っているのか。「住民の意見を真摯に受け止め」「お互いに意見交換を行い」などの言葉が出てくるが、具体的な内容は何も伝わらなかった。
- ・ 女性議員が堂々と質問する姿に感動し、まだまだ少数派でしかない女性議員の視点がいかに政治の場に必要なものであるか、そのために女性議員を増やしていくことが大切と感じました。

【第3講】

日時 2023年10月21日(土)13:30～16:00

場所 佐賀市メートプラザ 1階多目的室

講義 「女性と子どもの貧困について」

講師 内川実佐子さん(NPO法人空家・空地活用サポートSAGA副代表理事)

講義概要 女性や子どもの貧困家庭支援事業のコーディネーターも務める内川実佐さんは「女性のためのほっとカフェ」と名付けられた事業のコーディネーター役を務めています。この事業ではNPOやボランティア団体が繋がり、県内を4地区に分け、公民館などで生理用品などの日用品や食品などを配布すると共に、孤立しがちなひとり親家庭などの女性の相談にのっています。内川さんは低所得者や高齢者などの居住支援や、生活支援を必要とする人が無料で日用品を受け取れる「佐賀コミュニティフリッジ」も運営していますが、最近は申し込みが多く、希望される物品の確保が難しいと話されました。講演後、塾生は3つのグループに分かれ、現職女性議員のアドバイスを受けながら、女性や子どもの貧困問題対策についてグループディスカッションを行いました。この中では支援希望者は匿名性を求めることから、必要な物品を宅配システ

ムで受け取ることの出来る仕組みづくりはできないか、女性議員を増やし行政に現状を直接伝え、支援の輪を広げていく必要があるなどの意見が出ていました。



第3講師 内川実佐子さん



第3講 グループディスカッション

【第4講】

日時 2023年11月18日(土)13:30～16:30

場所 アバンセ3階 美術工芸室

講義 「日々の活動から課題を見つける」

講師 山下明子さん(佐賀市議会議員)

講義概要 佐賀市議会議員として10回の当選、議員生活32年の実績をもつ山下明子さんが、日々、議員としてどのような視点で課題を見つけ、活動しているかについて講演。その後、塾生は4つのグループに分かれ、「自分が議員になったらやりたいこと」をテーマにグループディスカッションを行いました。山下さんは1991年の初当選以来、こども医療費や学童保育、中小企業振興条例の改善などに取り組んできました。常に議員は市民の代表であり誰の立場で働くのかを忘れない事、議会をわかりやすく身近な存在にする努力を惜しまないようにとアドバイスされました。最後に、自身が日頃心がけている事として①アンテナを高く好奇心旺盛でいる事②市民の声、寄せられたSOSに寄り添う事③ピンポイントの改善だけでなく制度の改善に繋げていく発想をもつ事④ルールに疑問を感じたらもっと役立つルール作りに向けて諦めず粘り強く対応する事をあげられました。このあと、現職議員をコーディネーターに「議員になったらやりたいこと」をテーマとしたグループディスカッションを行いました。



第4講 グループディスカッション

公開講座

日時 2023年11月26日(日) 14:00～16:00

場所 アバンセホール

主催 佐賀県立男女共同参画センター

特定非営利活動法人女性参画研究会・さが

演題 「DJマユミが語る自分と向き合うということ
～社会と政治とジェンダー平等と～」

講師 佐賀女子短期大学客員教授・法学者
谷口真由美さん



東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長に「わきまえない女」と名指しされた元「全日本おばちゃん党」代表代行の法学者谷口真由美さんによる笑いあり賛同の拍手ありの熱量の高い講座となりました。相変わらずの小気味よい社会分析。大阪万博もしっかり論破。「どんな施策をされるか、税金をどう分配するのかは政治の話」として、思うだけでなく行動する有権者になろうと呼びかけられました。また、女性の生きづらさの背景には男性中心の社会構造があり、根底には大日本帝国憲法に縛られて従ってきた歴史がある。これを変えるには、男女ともに高校までの間に心を揺さぶられる経験をするかどうかが鍵と、教育の果たす役割の大きさを指摘されました。また会場から寄せられた佐賀の学力アップ、進学率アップのための方策についての質問に「男性が稼ぐという過去の図式から男の子に教育資金をつぎ込んできた。奨学金制度を充実させ、女の子も含め、お金がかからずに教育を受けられる仕組みを作ることが大切。子育て全般しかり」と回答。大人になってからもアバンセや自治体などの講座を活用し学びを深めて、自己実現のために一歩踏み出そうと語りかけられました。会場には女子大生や中高年の男性の姿も見られ、谷口さんの発信力の高さが伺えとともに「講演から勇気もらった」との声が多く聞かれました。



谷口真由美講師とともに



修了証授与



閉講式後の受講生の皆さん

【第5講】

日時 2023年12月16日(土) 13:30～16:00

場所 メートプラザ2階 視聴覚室

講義 「立候補するための準備」

講師 女性参画研究会・さが副理事長 佐賀県
女性議員ネットワーク副代表

内野さよ子さん

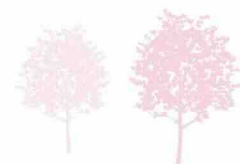
佐賀県女性議員ネットワーク事務局長

増田朝子さん

最終講義となった今回は「立候補するための準備」と題し現職女性議員が手続きやスケジュール、SNSを利用する際の注意点などについて話しました。その後、受講生が「議員になったらやりたいこと」と題して3分間スピーチ。1人1人が講評を受けました。いずれもこのまま立候補演説に代えられる程で、傍聴した多くの現職女性議員からも感嘆の声が上がっていました。

【閉講式】

塾生17名中、講義や議会傍聴、公開講座などに8割以上参加した11名に山崎和子理事長が修了証を手渡しました。式では山崎理事長が「半年間の成長ぶりには驚きました。政治家を目指したいという方も出て胸がいっぱいです」と述べ、毎回多大な協力をして下さった佐賀県女性議員ネットワークの盛泰子代表も「まずは佐賀県内の女性議員0の町を減らしていこうというのが悲願です。塾生の言葉は心強かったです。皆で応援していきましょう。」とエールを送られました。昨年の塾からは2名の新人議員が誕生しています。2期目の塾生の中からも議員が誕生してくれることを心から願い応援しています。「さが・女性政治塾」は2024年度も開催します。



赤松良子さんの訃報を受けて

元文部大臣で、男女雇用機会均等法の成立に尽力された赤松良子さんが2024年2月7日亡くなりました。94歳でした。赤松さんには当法人「女性参画研究会さが」が2022年6月に発足した「さが・女性政治塾」の開講に際して、動画で激励の言葉を頂きました。「クオータ制を推進する会」の代表として、政治に関心を持つ女性が全国に増えてくれることを願っておられました。

赤松さんと佐賀県の女性達が最初に親しくお話をさせていただいたのは1995年の北京女性会議NGOフォーラムの会場でした。女性活躍の先駆者であり、けん引役であった赤松さんとの邂逅に興奮する私たちの写真撮影の依頼に気さくに応じて下さいました。埼玉県の国立女性教育会館で開催されるワークショップでお目にかかる際も、同行した学生達に言葉をかけて下さるなどいつも女性達の活動に温かいまなざしを注いで下さっていました。訃報に接し、一つの時代の終焉を感じるとともに、その志を継いでいかなければなら

ないとの思いを新たにしています。心からご冥福をお祈りいたします。合掌。



2018年NWECフォーラムにて赤松良子さんと研修生たち



2022年さが・女性政治塾公開講座でZOOMで挨拶の赤松良子さん

「さが・女性政治塾2023」を受講して 島崎恵理

5ヶ月間にわたり、私たち第2期生を育てていただき、ありがとうございました。

どんな人たちが集まるのだろうと緊張しながら迎えた開講日、また会おうねと再開を誓い合った最終日。こんなにも素敵な出会いが待っているとは予想もしていませんでした。スタッフの方々がいつも笑顔で温かく迎え入れてくださる安心感の中で苦労も希望も活動の糧にして、前へ、前へと進む女性議員さんの姿を見て勇気もらい現実をしっかり見て、声を上げる大切さを学びました。

椅子に座って講義を聴くのだと思っていたらグループワーク、議会傍聴、レポート、発表と、なんでもありでほどよく鍛えられていく自分が楽しみでもありました。

出欠管理や会場設営、資料の準備、登壇者との打合せなどかかる労力は、受講生よりもスタッフの方々のほうがはるかに大きかったのではと思います。受講生の最終講のプレゼンが最高に素晴らしかったのは、スタッフの方々への感謝の気持ちを、受講生がプレゼンの中に詰め込んでいたのではと感じています。

さて、私がなにかあるたびに「立候補はしません」と言ってしまうのはその場に水を差すようで申し訳なさを感じつつも、自分に対して、言い聞かせる意味もあったように思います。

政治に関わる面白さを、この政治塾で知りました。2期生が団結し女性議員が増えれば、世のが変わるかもしれないという期待感も高まりました。思わずつられて「私も」と口からこぼれそうですが、奇跡的に条件が整って、仮に議員になれたとしたら性格的にはまりすぎて、今の仕事どころではなくなると思っています。

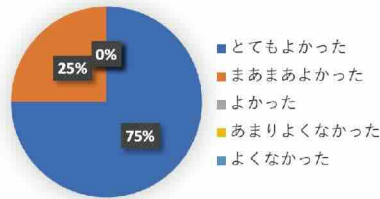
人に会いたい！話を聴きたい！現場を見たい！勉強もしなければ！次の議会ではこの質問をするぞ！情報収集だ！・・・そんな自分が容易に想像できます。しかし、それは、政治にも仕事に対しても中途半端になってしまうので、私は「応援する方」を選びます。次の選挙まで数年あるということは、きっと、さが・女性政治塾の3期生や4期生の中にも、立候補したいという方が現れることでしょう。同時に、応援したい人も。

現役女性議員の方々と、さが・女性政治塾卒業生の団結力で10年後には、佐賀の政治が大きく変わると信じています。

これからは、議会の傍聴に努め、機会を見つけて県や市の審議会などにも応募し、自分の生活の中に政治を取り込んで、政治塾の学びを発揮していきます。ありがとうございました！

さが・女性政治塾 受講後アンケート集計結果

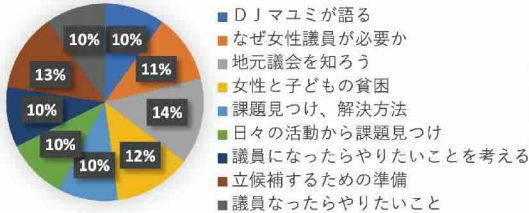
1 受講してよかったか



2 講義は受講目的と合致していたか



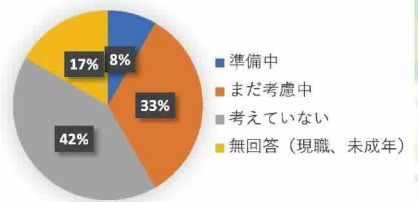
3 役に立った講義はなにか



6 運営方法はどうだったか



7 あなたの現状は



さが・女性政治塾 受講後アンケート集計結果(記述部分)

1 受講してよかったですか？

- ・普段考えなかったことを考えるようになりました。
- ・現職議員とお会いできて、直接話を聞くことができたことがよかったです。
- ・女性が政治に必要な理由が分かった。

2 講義内容は受講目的と合致していましたか？

- ・政治ほど難しいものはないけど、生活の一部と思うとハードルは低くなった。
- ・現役の身近な議員さんのおはなしを聞けるのはとても深い学びになります。
- ・深い問題点等も話がしたかった。(貧困)

3 役に立った、参考になったと思う講座はどれですか？

- ・全部役に立った。
- ・皆さんへの講評で、話し方など、とても参考になりました。

4 他にどのようなテーマの講座があると良いと思いますか？

- ・ベテラン議員に日々の活動をもう1例ほしかった。
- ・議員の1日のスケジュール 密着動画など
- ・国会議員を招聘(しょうへい)して1度講義してもらいたかった。
- ・選挙違反について
- ・行政との関わりについて
- ・政党の事を勉強したい(やりにくいですが)

5 どのようなスキルを学びたいですか？

- ・スピーチなど
- ・選挙出馬のノウハウ(手順)
- ・どれだけ多くの人がいても堂々と話すスキル。
- ・課題(問題となる事柄)と解決について
- ・NPOとのかわわり

6 運営方法はいかがでしたか？

- ・毎回、きめ細かい配慮のある講座でした。

7 あなたの現状は？

- ・家族の反対がある。
- ・政策が固まっていません。
- ・3年後の町議選に向けた勉強中です。
- ・25歳になったら立候補したいと考えています。

8 今後の政治塾に対するご意見、ご希望は？

- ・広報がわかりづらかった。
- ・メディア取材に来ていただければ周知できるのではと思います。
- ・もっと1つのテーマに(少子化、ネグレクト、子どもの事をテーマにしてほしい)集中して、毎回、問題を皆で考えたい。

編集後記

毎年、3月8日、国際女性の日に発表される都道府県版ジェンダーギャップ指数2024で佐賀県は政治においては45位と全国でも最下位グループに位置しています。県内の市町の女性議員は全体の13%ほど。その声の一つの形になると言われる3割には程遠い数字です。こうした現状から役員が集まるといつも「生きていくうちに3割は無理かなあ」「その前に候補者を探さなくちゃ」「家庭内野党の壁が高すぎるのよねえ」とぼやいてきたのです。ところが、「さが・女性政治塾」2期生と話していて、それを軽やかに超えていく女性たちが増え

ていることに気づかされました。「夫は応援してくれています」「立候補の準備の仕方を具体的に教えて下さい」「仮に立候補できなくても女性議員を応援します」。力強い言葉が次々に出てきます。塾生の最年少は14歳！「選挙権だけじゃなくて、被選挙権も下がればよいのに」という声も上がりました。新たな価値観が育ちつつある手ごたえがあります。政治は生活と共にあり、生活は政治そのもの。次の世代と言わず、今、イノベーションをおこしましょう。(内田信子)